



飼葉を食べる時、どうしてもポロボロとこぼしてしまつトラベリング君

## 小島友実の あの馬の STORY



### トラベリング

高橋亮厩舎に所属するトーベンシングが、2月24日に阪神競馬場で行われたダート1200メートル戦で見事1番人気に応え、「アーネスト」を勝ちました。母のマークレーン・ラブマークアーネストカの短距離重賞勝ち馬で、父が「ゴールド」アーネスト。初めてトーベンシングを見た時、良い筋肉を持つていて、素晴らしい馬を預けて頂いたなと想つておいた。ただ育成時は球節が腫れたりソーゲが出たりして、栗東トレセンへ入りましたのが今年1月。入厩時もまだエガ落着かなないうま。状態が万全ではなかったのですが、それが新馬戦も残り少なくなり、そして、厩舎でじっくり調整しながらお手入れしてもらいました。

しかし、調教を進めしていく段階で変わらぬ姿を始めたので、高橋調教師は振り返ります。

「マークレーン・ラブマークアーネストは坂路に入れた時やそろんなど速いところを乗る予定ではなかったのに、時計が出てたりして、馬はやつぱり走り出しがだん感じましたね。チップも遅く出しきかれて少しも遅めに着いてしまったし、当初はやんややんやんやがあった精神面も調教するといふところを乗り越えてきました。入厩後は順調に進みましたね」

当初は東京のダート1400メートルで「アーネスト」でしたが除外となり、阪神のダート1200メートル戦で「アーネスト」。人気にも応えて快勝した事は先述の通りです。

「ルメール騎手は調教で乗つてくれていたので、レース本番は任せていきました。8

枠からスタートを決める。内枠から主張していく馬がいたので、トーベンシングは3コーナーで4番手位の外目の位置取つ。外を走るわれている分が少し心配でした。でも、4コーナーでの手応えが十分だったので、直線で追う出されねば「アーネスト」に応えしっかり伸びましたかね。ペースなどの兼ね合いであわゆる単純比較はされましたが、同じ日の同条件のレースと比べるとトーベンシングの勝ちタイムは速い。良い内容で勝ち上がりてくれたし悪くはない」と、見えてくれるよしよし。

普段のトーベンシングはどんな馬なのでしょう。レース後の3月初旬、高橋厩舎を訪ねて担当の田中宏明調教師務員にお話を伺つました。

「アーネストの源は頑固ないいぬもあるつましだが、田代といふ堅めの着こなしがある。普段はふしやくわやな面もあるものの、基本的には扱いやわい馬です。癖ですか? 飼葉を下に落としながら食べます。かよつこだいしない(笑)。飼葉食いは良くてさわやかです」

じぶつ事で、飼葉を食べぐるねトーベンシングの様子を見せて貰いました。おねじ確かに。夢中になつて食べるかの? じぶつや桶の端やトーベンシングの飼葉をほつしもつトーベンシング君(笑)。写真を撮る私にもお構にならず食べ続けの姿が微笑ましかったです。あとは明けの歳じつ事もあって、顔もまた幼い印象。だから、今後更に成長していくかもしれませんと感じました。

「ルメール騎手は調教で乗つてくれないので、レース本番は任せていきました。8月の取材後にアーネストが短期放

牧に出たトーベンシング。高橋調教師に適性について伺いました。

「調教を重ねながら、トーベンシングは面がなくなりました。トーベンシングは

00メートルも外々を回る形で最後までしっかり伸びました。じぶつと伸びました。この後は、4月7日の阪神ダート1400メートルで予定ですね」

現段階での課題として、後の可能性ないほどの見えてくるのでしょうか。

「アーネストは大丈夫なのですが、まだ脚元がバツとしている。トキもしつかりしてきたことは緩慢な残る状態で、調教ではまだれて走る時があります。そつつかれから現状ではターミナルで強いてしまいます。このあたりは強化途上の中、強い内筋で新馬勝ちして、それまでかなり脚元やトキがつきたりしてはいけません。」

トーベンシングが遅れて会員の皆様にはお待たせしてしまいましたが、ここまで待った甲斐があり、馬も良くなつたのであります。今回のトーベンシングの旅はまだ始まったばかり。今

回のトーベンシングの内筋からも素質があることはわかっています。ただだけと想つますので、私はもうトーベンシングの能力をきかれて発揮せられるのか、厩舎スタッフ力を合わせて調整していくお手伝いです。応援よろしくお願いします」

母のマークレーン・ラブマーク、祖母の Miss Utada カーの連想发挥了。ミス・アーネストの旅は、まだ始まったばかり。今後が楽しみですね。

(取材日: 3月4日)

### profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンには馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。